



3

1) 『smile』の家の間取りは中庭のデッキスペースを囲んだL型配置。玄関正面にデッキを眺め、右側はダイニングキッチンと水廻り、左側は広間と和室に分かれている。2つのゾーンをあえて離す事で空間にゆとりを持たせ、家族それぞれに合った時間を楽しみむ事ができる。



2

2) ダイニングからデッキを眺める。ダイニングキッチンは中庭のデッキに向かって配置。大きなガラス窓を開放すればデッキ空間もダイニングの一部となり、食事がよりいっそう楽しみな時間に。

3) 玄関から広間を眺める。広間と和室は屋根形状を利用した勾配天井になっている。天井の杉板を縦方向に張り、スッキリとした印象の部屋にした。広間の中でもデッキと繋がった窓際はポカポカの縁側空間。内外問わず好きな場所で読書なども良いですね。

コロボの家を何度も見ているSさん、あれもこれもと希望はあれど、実際に自宅の計画となると様々な制約もあり、思い通りにはいかない事もありました。ですが、最後までこだわったのはやはり板倉構法と薪ストーブでした。木に包まれた優しい空間の中で子供たちを育てていきたい、そして今では少なくなった火のある暮らしを再現し、暖かさと共に薪づくりなども楽しんでいきたいと話していました。薪ストーブ

板倉構法と薪ストーブ

施主のSさんとの付き合いは長く、実はコロボの家づくりに欠かせない業者さんの一人です。Sさんには設備関連の仕事を頼み、ほぼ全ての現場の計画段階から完成までの協力を頼んでいます。コロボの家についても細部まで熟知しているSさん、自宅を建てる時は板倉の家を建てたいと考えてくれました。数年前から現場で会った時などに何となく家づくりの相談を受けていましたが、2年程前から具体的に計画が始まり、今年の1月にご実家のある磐田市に自宅を建築する事ができました。打合せ当初はご実家の敷地内に建築する案や、仕事場に近い場所に新しく敷地を求めて建築する案などもありましたが、最終的にはご実家から少し離れた場所に建築する案に落ち着き、昨年の夏から工事がスタートしました。

庭の山法師の葉が赤く色付きはじめ、事務所近くから見える富士山の姿もいつの間にか雪化粧をしています。今年も気がつけば師走を迎え、1月に完成した『smileの家』も早いもので1年を経過しようとしています。Sさんの二人の息子が木の家の中を元気よく走り回っているイメージから『smileの家』とネーミングし、笑顔の溢れる木の家になればと思い計画をしたお宅です。先日撮影のためにお宅に伺った際もデッキや家の中で元気よく飛び回り、家のどこからでも笑い声の聞こえるスマイルなお宅になっていました。

元気印の

木の家に暮らす

完成現場報告 磐田市『smileの家』

文・写真／コロラボ 山崎健治

1



7



6

6) 床・壁・天井全てが杉板でつくられ、まさに木に包まれた子供室。現在は2室つなげた大きな部屋になっているが、将来は区切れるように出入口を2つ設け、それぞれの部屋からロフトに上がれるようになっている。

7) 子供室の入口には本棚のある読書ホールを設けた。子供たちにいつでも気軽に本を見て欲しいと考え、手の届く高さの低い本棚とし、吹抜けやハイサイド窓のある、明るく楽しい空間とした。

木と絵本に包まれた子供室

板倉の家はスギ板を壁や床、天井に多く使用し、家の構造体であると同時に内装材としても役割も果たしています。広間や和室などは板倉の壁の上に漆喰や土壁を塗り、部屋の明るさや雰囲気演出する事がありますが、子供室の壁は板倉の杉板をそのまま現してつくる事が多くあります。

4) 東道路からの外観。L型形状の間取りの中で、広間と和室のある部分は平屋でつくり、キッチンと水廻りのある部分に2階の子供室を配置。道路側が平屋形状となるため圧迫感も少なく感じられ、伸び伸びとした印象の外観となった。

5) Sさんが選んだ薪ストーブはダブルの640CBJ。存在感のあるクラシックなスタイルだが、メンテナンスや使い勝手が良いと好評。正面の大きなガラス扉の他に向かって右側にも扉があり、長い薪の入れやすい形状をしている。



5



4

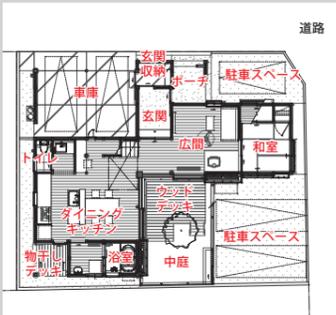
ブの設置は早い段階から決定していました。家のどの位置に置くのが良いか、また、薪ストーブのタイプも悩んでいました。計画当初はダイニングに近い場所にクッキングストーブを設置する事も考えていましたが、くつろぎながら炎を見るのもいいねという案もあり、最終的には広間の一角に設置する事になりました。今回選んだ薪ストーブはダブルの640CBJ。クラシッくなスタイルのストーブですが、メンテナンスや使い勝手の評判もよく、天板が大きいのでちょっとした料理も楽しめるストーブです。家の完成が1月という事もあり、新しい暮らしのスタートと同時に薪ストーブライフを楽しんでいました。

撮影に伺った11月にはまだ薪ストーブを使用していないようでしたが、庭には広葉樹の太い木が何本か置かれ、休日は薪づくりに励んでいると伺いました。撮影中に二人のお子さんが庭に出て薪を使って工作をはじめていました。子供は何でも身近なものを遊び道具に変えてしまうなど感心し、逆に身近に何があるかが大切で、木の家や薪ストーブという選択が、子供の成長にも大きく関係していくと改めて実感しました。

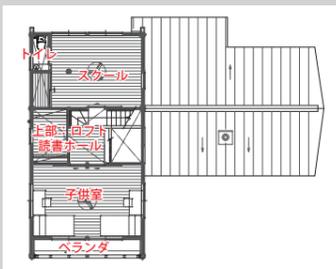
『smileの家』の2階に設けた子供室も床・壁・天井全てが杉板でつくられ、まさに木に包まれた部屋になりました。新築して2、3年はスギ特有の源平柄が目立ち、少し重厚な印象もありますが、時間と共に色合いが変わり、段々と落ち着きのある印象に変わっていきます。また、木の壁は塗り壁などとは違い、少々乱暴に扱っても大丈夫。また絵を飾ったり、後で棚をつくる事も簡単です。子供の成長に合わせて変化させていく事ができるので、暮らしながら子供室をつくっていくのも良いと思います。

『smileの家』の子供室は、6帖の部屋を2室つなげた形になっています。現在は二人の子供の机を一室に並べ、その他のスペースは遊び場になっています。また子供室の上部にロフトを設けましたが、これも現在は遊び場かな...? として絵本がとてまたたくさんあるということだったので、子供室の手前に本棚のあるホールを設けました。ホールには、絵本を気軽に見る事ができるように子供に合せて低い本棚を設置。ハイサイド窓からの採光を取り入れた明るいホールになりました。

木と絵本に包まれた子供室で、心身共に元氣よく成長してもらいたいと願い、『smileの家』の遊び場...いやいや、子供室ができました。



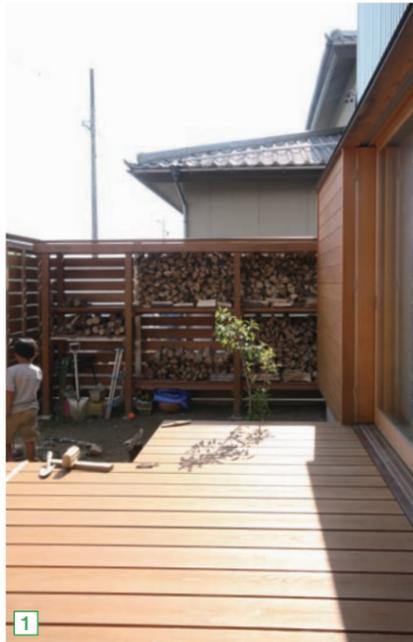
1F 平面図・敷地図



2F 平面図

仕様内容

家族構成	家族 4 人
敷地面積	194.65 m ²
建築面積	102.74 m ²
延べ床面積	142.04 m ²
構法	板倉構法 2階建て
屋根	ガルバリウム鋼板 タテハゼ葺き
外壁	ガルバリウム鋼板 角波縦貼り
外部建具	木製オリジナル建具 タモ、ナラ、ヒバ、ペアガラス
天井仕上	アルミサッシ (ペアガラス)
壁	杉板本実張り 厚 12mm
床	落し込み板現し
内部建具	杉本実板 厚 30mm
キッチン	オリジナル木製建具
洗面化粧台	オリジナルキッチン
浴室	オリジナル化粧台
	ハーフユニットバス：日比野化学工業
	壁、天井：青森ヒバ FJ 本実板 厚 15mm
設計者	山崎健治
施工	有限会社こころ木造建築研究所
竣工	平成 26 年 1 月



『smileの家』 アイデアと工夫 をご紹介します

中庭デッキを中心として、明るく開放的な間取りとなった『smileの家』。暮らしの中心はやっぱりこのデッキ空間ですが、家事動線や細部の作りにも注目です！

1) 中庭デッキ：広間とダイニングに繋がったデッキは約7帖の広さがあります。子供たちが駆けまわったり、ひなたぼっこをしたりと暮らしの中でゆとりの時間を生み出してくれる空間ですが、時には洗濯物や布団干しの場所としても大活躍。多目的に利用できる外部空間です。

2) 家事動線：二の字型に配置されたキッチンの近くに脱衣室や物干場を設置しました。忙しい毎日の家事を少しでも効率的に行えるようにと考え、敷地形状や間取りの中から生まれたアイデアです。

3) 木組みのテーブル：ダイニングに置かれたテーブルは、藤枝市に工房を構えるHWFの久留さんに製作してもらいました。シンプルな4本足のテーブルですが、足や幕板の形状を吟味し、シンプルで丈夫なデザインとなっています。

4) 木の浴室：ハーフユニットバスの天井と壁に青森ヒバの板を貼りました。青森ヒバ特有の香りに包まれ、心身ともにリラックスできる浴室になりました。

5) 多目的な和室：広間の一角に4.5帖の和室を設置しました。時にはくつろぎの空間に、時には寝室や客間として利用できる部屋として、暮らしの中で多目的に使える場所としました。



8) 英会話教室の枝付きのシンボル柱。特殊な柱なので調達できるか不安もあったが、製材屋さんにちょうど良いサイズが！これも緑かな。教室に来た子供たちには英会話の勉強と合せて楽しい時間を過ごしてもらいたい。

9) 2台分の駐車場の中2階に設けた英会話教室。教室への送り迎えの車のため、敷地内に少しでも多くの駐車スペースを確保したいと考えた案。最終的に5台分の駐車スペースを確保する事ができた。

10) 階段の途中に見える扉が教室の出入り口となっている。教室は広間やキッチンのある1階と子供室のある2階の中間に位置している。

生活スペースと 英会話スクール

板倉構法や薪ストーブといったこだわりの他、Sさんから家づくりの相談を受けていた当初から、子供を対象とした英会話スクールを自宅で行いたいという希望がありました。家の中に教室を設けるという事は単に部屋をひとつ作れば良いという事ではなく、教室の大きさやその他の部屋との関係や動線、送り迎えのための駐車スペースなどを考える必要がありました。駐車スペースを広く確保しながらも教室のスペースも十分な広さを確保するために、駐車スペースの上の中2階に教室を設ける事となりました。車2台分のスペースがそのまま確保できたので、12帖の広さの教室をつくる事ができ、また中2階のため1階や2階の生活スペースとも程よい関係が作れたと思います。教室へは玄関を共有しての動線ですが、生活スペースを横切る事無く移動できるように階段を配置しました。また部屋の下は駐車場なのでスクールに来た子供たちが気兼ねなく遊ぶ事もできます。教室には枝付きのシンボル柱を建て、上つたり飾ったりと楽しい仕掛けをつくる事もできました。現在はまだ子育て等で忙しくスクールが始まっていませんが、この教室から元気な子供たちの英会話が聞こえてくるのを楽しみにしたいと思います。

スマイルな暮らし

『smileの家』が完成し、あと少しで2シーズン目に入ります。まだ始めたばかりの新しい暮らしですが、薪ストーブや開放的な空間にも慣れ、二人の子供たちも毎日家中を遊び場として元気な笑顔を見せてくれているようです。暮らし始めた当初は戸惑いもあったと思いますが、木の家は住み慣れていくうち心地良く感じられ、毎日の当たり前の暮らしに変わっていきまます。薪ストーブも広いデッキも木のお風呂も、以前の生活からみればどれも特別なものだと思いますが、木の家に暮らしていると、ずっと前から暮らしていたと思えるほど馴染み易いと感じていただけだと思います。打合せ当初からこだわり、色々な制約の中でも最後まで諦めなかった板倉構法の家と薪ストーブ。機能や性能、効率などで考えればまるで逆の選択ですが、毎日の暮らしが心地良いというのは、何ものにも代え難い贅沢で、家族が健やかに暮らしていく事のできる器をつくるという事が、家づくりの中でとても大切な要素だと思います。段々と寒くなり、2回目の薪ストーブシーズンが始まりますね。今年も木の家でスマイルな冬を過ごしてください。